

第六部 国際行事に恵まれて

第一章 明治百年と丸善百年

一 明治百年

一九六六年を迎えて国際情勢は決して安心できるような状態ではなかった。「科学の進歩」のためという名のもとで核実験は行われ、米国とソ連との沈黙の競争は終止するようすもなかった。中東諸国では、中東地域に於ける主導権争いで不安定な姿を示していた。東南アジア、特に南北ベトナムの内乱は、その背後の支持国家を考えるとき、戦慄の感を禁じ得ないものがあった。インドネシアではスカルノ大統領から終身大統領の称号を剝奪して、スハルト陸相が大統領代理となり、つづいて国連に復した。

しかし、そのような外交上の国際的緊張とはかかわりなく、各国人民の交流は日と共に盛んであった。昭和四十

一年八月二十二日から九月八日まで第十一回太平洋洋学術会議が四十年振りに東京で開催されたが、参加国六〇カ国、参加者五、九〇六人、発表論文数約二、〇〇〇という盛大ぶりであった。

国内経済は、政府の経済の安定・拡大開発政策や、貿易政策のため、昭和四十年後半の不況も収束し、その上に昭和四十五年三月に大阪の郊外千里丘に開催される万国博覧会に寄せる期待もあって大体好況裡にあった。

そうした中で、昭和四十三年には明治百年の期を迎えたが、これも、諸般の記念事業が行われることによって、民衆の心には明るい材料となった。

維新政府が慶応の元号を明治と改め、一世一元とする旨の太政官布告を公布したのは、一八六八年十月二十三日（西暦）で、当時わが国が用いていた太陰暦では九月八日であった。昭和四十三年は、その時から数えて満百年のときにあたる。正味百周年である。しかも日本の存続さえ危ぶまれるような敗戦から立ち上がって、世界有数の経済大国といわれるまでに立ち直ったのである。いろいろの理屈はあったとしても、まず何等かの記念行事を行うことは当然であった。

政府は、陰暦九月八日に当る十月二十三日を以て、千代田区北の丸公園の日本武道館において、天皇皇后両陛下、常陸宮御夫妻の御来臨を仰ぎ、佐藤首相をはじめ衆参議長、最高裁判所長官、在日各国大使、各閣僚、国会議員、各界代表の列席を得て、明治百年記念式典を挙行、同日その記念のため特赦を行った。

これよりさき、東京都ではこの年十月一日の都民の日に、皇太子殿下の御臨席を仰ぎ、東京百年祝い式典を挙行した。江戸を東京と改称したのは、明治元年九月三日（太陰暦七月十七日）であった。

二 丸善創業満百年

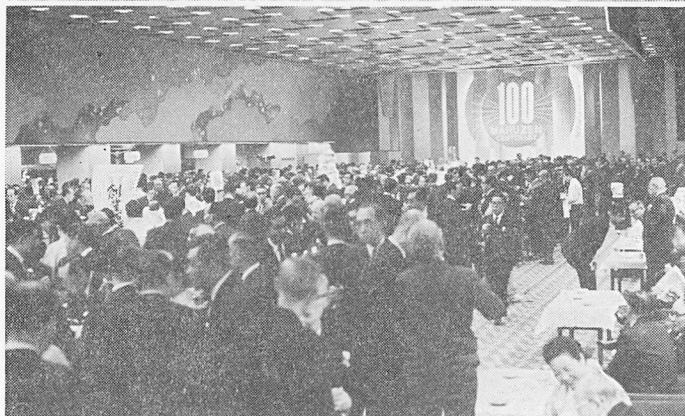
ところで、当社が、横浜の新浜町に、丸屋商社を開いたのは、明治二年一月一日である。それで、この日を創業の日に定めているが、その準備は、明治元年に始めていたことは、いまさら言うまでもない。

このような事情から、別項で記したように昭和四十三年から創業百年記念の意を込めて色々の行事を行ってきた。そのうち、「明治百年記念洋書一〇〇年展」「世界美術書展」「優良図書展示即売」「Philosophische Bibliothek」（仙台支店）及び「創業一〇〇年記念事務機械セール」等については、後述するのでここでは省略する。

ここでは、その他の行事について記しておかねばならぬ。

その第一は、木村毅著「丸善外史」の発行である。初版奥付に昭和四十四年二月二十二日発行 丸善社史編纂委員会発行とある。この日付は、当社がホテル・オークラで創業一〇〇年記念パーティーを催した日である。稿は前年の六月入梅の前後に完成されていた。昭和四十一年八月から発足した新社史が完成までになお時間を要したため百年記念のために執筆したものである。この書は当社が外国文化の輸入に果たした功績を興味深く語られて余すところのないもので、博士のように生涯を文化交流史の研究に捧げた人であって初めてなし得る仕事であった。各新聞の本書に対する評も、そういう意味を含めて極めて好評で忽ち版を重ねた。

前記の昭和四十四年二月二十二日、東京赤坂のホテル・オークラの平安の間で創業一〇〇年記念パーティーを催した。招待した方々は、駐日各国の外交官、学術文化関係の方々、政財界その他各界の名士、それに株主、取引先



創業百年記念パーティー

の方々を含め三千名近くであった。司社長ならびに各重役は、会場入口で来賓を迎え謝意を表し、また、記念品として前述の「丸善外史」と“Longman's English Larousse”を贈呈した。

越えて三月一日、名古屋支店において、記念レセプションを開催、司社長も列席の上約一千名の方々を招待して、本店におけると同様に記念品を贈呈して、謝意を表したのであった。

当社は、社が何らか記念すべき時には、株主ならびに社員にその歓びを分ってきたが、この創業百年記念に際しても、別項記載の通り株主に記念配当を行い、同時に全社員に対しては、勤続一年について三千円の計算で特別賞与を支給した。